

事業所名

児童ディサービスにじいろ

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

31日

法人（事業所）理念	一人ひとりの発達に応じた支援を追究し、その人の持てる力を発揮して自立した生活を営めることを目指す。		
支援方針	5領域に沿ったプログラムを計画的に実施し、子どもたちが安心安全に過ごせる環境を提供する。子どもの自由な発想と主体性を軸とした療育を展開する。		
営業時間	10:00 時	分から	19:00 時 分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
具体的な支援内容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 心身の異変に早く気づけるよう、毎日の健康管理（体温測定など）と健康観察を行い、必要な対応を行います。 登降所時の身辺処理（靴の着脱や靴箱への出し入れ、荷物の整理、提出物の確認など）を習慣化づけるよう支援します。 家庭での生活の状況を把握しつつ食事、排泄、睡眠等の生活リズムの安定が図れるよう支援します。 利用者の障害特性に合わせて、視覚化や構造化を行い、不安なく過ごせるよう支援します。 	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動や外遊びを通して体を動かせる場を提供し、身体機能の維持向上を図ります。 集団活動や製作活動を通して、視覚、聴覚、触覚等の感覚を充分活用し、感覚機能の発達を促せるよう支援します。 姿勢保持や運動機能の観察を行い、必要に応じて個別に支援を行います。 	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 色、数字、物などの様々な概念の獲得を目指した課題の提供を行います。 感覚を刺激し興味・興味の幅が広がるような製作活動や季節ごとの活動を取り入れた支援を行います。 認知の偏りや拘りが軽減できるよう、環境整備や支援の工夫を行います。 	
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の発達段階に応じた学習課題を設定し、読み書き能力の向上を図ります。 インリアルアプローチを基本に、コミュニケーションの経験ができる場面設定をプログラムに取り入れます。 言語聴覚士による、個別、小集団での言語訓練を行います。 絵カードやサインなどを用いて、言葉以外のコミュニケーション手段の獲得ができるよう支援します。 	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動や外遊びを通して、ルールや順番を学び、協調したかわりができるよう支援します。 他者との適正な距離感が把握できるように、適時の声掛けを行い、他者との良好な関係形成を支援します。 	
家族支援	連絡ノートや、送迎時の会話などで随時情報共有を行います。必要に応じて面談や参観する場を設け、不安や困りごとへの相談援助を行います。	移行支援	学校や保育所、相談支援機関との情報交換、担当者会議の実施など、包括的な支援が行えるよう努めます。
地域支援・地域連携	地域イベントへの参加、町内図書館での学習等、当法人の行事での参加等地域との交流の機会を提供し支援します。	職員の質の向上	・毎月の職員会議の実施・ケース検討会議の定期的な実施・虐待防止研修の実施・内部研修と外部研修の実施
主な行事等	・誕生日会（ 月 月 月）・所外活動（ 月 月 月） ・夏祭り（ 月 月）・クリスマス会（ 月 月）		

放課後ディサービスにじいろ支援プログラム

令和7年4月～令和8年3月

曜日	月	火	水	木	金	土
領域(※5領域)						
①健康・生活	・生活学習 (例) 紙芝居で食事マナーを学ぼう		・生活学習 (例) 正しい歯の磨き方を学ぼう	・生活学習 (例) 身嗜みについてO×クイズ		
②認知・行動		・机上課題 (例) ビンゴゲームで楽しく学ぼう	・生活学習 (例) 防災O×クイズ			・机上課題 (例) グループワーク(こんなどきどうする)
③運動・感覚	・廃材工作 (例) 身近にあるもので動くおもちゃをつくらう	・リトミック (例) 楽器を使ってリズムを刻もう	・屋外あそび (例) どんな虫がいるか探しに行こう	・文具の使い方 (例) 季節の創作を楽しもう	・バランス感覚を鍛える (例) スプーンリレー	・クッキング (例) 手順通りに進めよう
④人間関係・社会性	・グループ遊び (例) ドッチボール・けいどうでルールを学ぼう				・グループ遊び (例) だるまさんが転んだ	・子ども会議 (例) 活動・遊びについて意見を出そう
⑤言語・コミュニケーション				・振り返り (例) 今日楽しかったことを話そう		・振り返り (例) 明日の予定など未来のことを話してみよう
インクルージョン			・公共施設での過ごし方 (例) 図書館へ行こう			

※5領域支援とは・・・

①「健康・生活」②「認知・行動」③「運動・感覚」④「人間関係・社会性」⑤「言語・コミュニケーション」の5領域が相互に関連して重なり合った支援のことを言います。

①健康な心と体を育て、生活リズムや生活習慣の形成、また基本的な生活スキルが獲得できるようにします。②空間、時間、数などの概念形成の習得、外部環境の適切な認知と適切な行動を習得します。③姿勢と運動、動作の向上、保有する感覚の統合的な活用を通して身体機能を高めます。④人間関係の形成、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加を促します。⑤言語の形成と活用、コミュニケーション手段を獲得することでコミュニケーション能力の向上を目指します。